

# 大東流合気柔術琢磨会・秋季演武大会

## 森総務長米寿記念



日時：令和元年9月14日（土曜日） 10:00～15:30

会場：大阪市立修道館（大阪城公園内）大阪市中央区大阪城 2-1

主催：一般財団法人大東流合気柔術琢磨会

一般財団法人大東流合気柔術琢磨会：令和元年9月現在

理事：森 恕（代表理事）、榎原恒夫、藤江美智雄、小林明彦

監事：樋口明寿

評議委員：森亮二、沼田洋佑、三木清明、谷井健一

一般財団法人大東流合気柔術琢磨会 協賛支部一覧（順不同）令和元年9月現在

小林コスミッククラス（小林清泰支部長）、土曜クラブ（渡辺支部長）、  
難波支部（堂上支部長）、藤井寺支部（中川支部長）、  
ひよこクラブ（鍵田支部長）、西代同好会（榎原支部長）、  
榎原同好会（今西支部長）、西鈴蘭台カルチャー（榎原支部長）、  
名張支部（稲田支部長）、岸和田支部（小林高士支部長）、  
ファーストステップ日曜/金曜朝/水曜/金曜（榎原支部長）、

「四国関連」

高松支部（平岡支部長）、  
徳島（阿部支部長）

「海外関連」

フィンランド、アメリカ、オーストラリア、フランス、等

「顧問等敬称略」

久師教授代理：小林清泰師範、井澤師範、庵木師範、小林高士師範、

尼崎支部（三木支部長）、  
芦屋支部（森下支部長）、  
京阪支部（福岡支部長）、  
本山カルチャー（榎原支部長）、  
川西同好会（田中支部長）、

小松島支部（木村支部長）、

# 総務長挨拶

琢磨会は、大東流合気柔術中興の祖である武田惣角から、唯一免許皆伝を受けた久琢磨によって組織された大東流合気柔術正統の技を伝える本邦唯一の古武道団体であり、武田惣角の最晩年の円熟した数多くの技法を忠実に保存伝承する由緒と意義のある団体であります。

昭和五十三年十月、偉大な中心人物であった久琢磨を失った後は、会員一同結束を固め、久琢磨の意思を継ぐべく、大東流を研究、練磨し、保存と伝承に努めてまいりました。昭和五十六年を第一回として開催されてきた演武大会もその活動の一環であり、この三十余年の間に、支部数会員数は飛躍的に増加し、今や琢磨会は古武道会屈指の大団体に成長してまいりました。

これは、琢磨会を支持し、種々ご指導ご支援頂いた多くの方々のご芳情の賜物と厚く御礼申し上げます。

技法面でも基本技を確実に身に着けた会員層が定着してきており、琢磨会に遺された真の合気に通じる奥義秘伝の技の研究、膨大な技法の体系的整理、伝承方法の検討も、着実に進められてきております。

大東流の技には古武道でありながら近代的な合理性があり、しかも同時に、会得しがたい神秘的な秘伝技法を具有していて、単なる文化遺産としての価値だけではなく、汲めども尽きぬ新鮮な魅力が溢れています。

近年、大東流は益々内外の関心と呼び、特に多くの神秘性と変化に富んだ技を伝承する琢磨会は武道界の熱い注目を集めておりますが、我々はますます技の研究稽古に一層の努力を傾注してまいりたいと思っております。会員諸氏の更なる精進を切に願う次第であります。



大東流合気柔術琢磨会 総務長

森 恕

# 琢磨会とは

琢磨会は、大東流合気柔術中興の祖である武田惣角から唯一免許皆伝を受けた久琢磨の門弟たちによって組織された武道団体であります。

久琢磨は明治二十八年十一月三日高知県安芸郡佐喜浜に生まれ、大正四年神戸高商（現：神戸大学）に入学、学生時代は相撲部主将として活躍しました。

卒業後、鈴木商店に就職した後、神戸高商の先輩石井光次郎に誘われ朝日新聞社に入社。庶務部長在職当時に、社業の一環として植芝盛平（合気道開祖）を招いて武道の指導を受け、次いで武田惣角より厳しい稽古を受けました。久琢磨は植芝盛平、武田惣角より指導を受けた技を写真に収めて総伝十巻にまとめ、これが現在の大東流合気柔術の初伝から皆伝まで多数の技法資料として琢磨会に伝承されています。

惣角の門人は全国で三万人ともいわれ、植芝盛平をはじめ多くの教授代理がいた中で、久琢磨は昭和十四年三月に武田惣角より唯一免許皆伝を許されました。以降、この武道の保存普及に尽力されました。

昭和三十四年関西合気道倶楽部を開設して後進の指導にあたられましたが、その後病床に伏し、昭和五十年久琢磨を中心に門弟たちにより琢磨会が結成されました。

久琢磨は昭和五十五年十月三十一日に他界されましたが、亡くなる直前に森恕を総務長に任じ、後事の全てを託しました。

現在、琢磨会は森恕総務長の下、大東流合気柔術の技法を研究練磨し、次世代に伝えるべく次の様な活動を行っております。

- ・支部、カルチャー教室の開設による門弟、会員の指導
- ・演武大会開催
- ・合同稽古会開催
- ・機関誌等の発行

法人設立の経緯を新しい会員の方にも解り易くご説明する為、和田様寄稿の会報 75 号から久先生の遺言で久琢磨師より森総務長に後顧を委託された経緯などが解り易く紹介されております。会報 83 号森総務長が古武道協会功労賞を受けられた時に会報寄稿いただいた文を掲載いたしました。

## 特別寄稿

## 『父久琢磨の遺言』

和田陽子

私ことになりましたが、来年一月に末の子供卓也（兵庫県警・高砂署勤務）が、淡路の大住三津子さんと結婚することになっています。思えば、卓也が七月に生まれ、その年の十月に、父が亡くなりました。世の常とはいえず、時の流れは、速いもので、三十年近くが過ぎ去ろうとしています。その間、父の子供の四女朝子、次女喜代、長男南平、三女京子、そして長女佐喜が次々と亡くなり、私が最後の子供となってしまいました。

父は、土佐の佐喜浜で生まれ、苦学して神戸高商に進学、卒業後は鈴木商店に就職しま

した。しかし、ご存知のように、鈴木商店は、米騒動で破産してしまいました。その頃の父の様子は、城山三郎「鼠」で伺い知ることができます。その後、先輩の石井光次郎さんに誘われ、朝日新聞社に入社、庶務部長・航空部長を歴任いたしました。その頃の様子は、新延修三の「われらヒラ記者 朝日新聞を築いた人たち」で何章かに渡って紹介されています。その後神戸製鋼所の厚生部長になります。その後、関西合気道倶楽部を立ち上げ、森さんや、小林さんらと合気道に励んでいました。わたくしも、御堂筋の道場には、たびたび押しかけ、練習ぶりを見て、楽しんでおりました。

この時代に体を悪くし、多くの子供たちが住んでいるということで、東京へ移り住みました。東京時代は、多くの子供たちに囲まれ、楽しそうに暮らしていましたが、やはり、最後の生活は、関西でという気持ちだが、強かったのでしょう。私が神戸で住むと言ったら、喜んで同居するということになりました。こ

うして、最晩年の幸せな生活を始めました。

神戸の垂水では、森さんをはじめ、多くの人たちに来ていただき、酒を飲み、談笑を交わし、楽しそうに暮らしていました。この会報の読者の方の中にも、垂水に足を運んで頂いた方も、いらつしやると思います。が、その楽しい時期もそう長くは続きませんでした。一九八〇年九月に父の友人の経営している神戸、長田の公文病院に入院いたしました。死を覚悟したのか、ある日、森さんと呼んでくれ、と言うので、わざわざ病院へ来ていただきました。父は、森さんを病室に招きいれ、ベッドサイドに森さんと私が立ちました。その時は、かなり弱っていたのですが、大きな声で、最後の声を振り絞るように、「森さんを琢磨会の総務長に任じて合気道の全てを任せる。よろしく頼む。」と言いました。病室にひびきわたるようなしつかりした大きな声でした。特に「全て」の部分には、思いをこめて、一層大きな声で力を込めて強く言い、後事を託していました。ベッドの側にいた私はいよ

いよその時が近づいてきたな、と胸が痛くなりました。森さんは、「わかりました。」と答えられたと思います。それから数日後に父は、苦しむことなくあの世に旅立ちました。後顧の憂いは、何もなかったと思います。

そして、現在の森先生を中心とした大東流合気柔術の隆盛繁栄ぶりを見て、本当に喜んでおります。先号の会報で西神支部の吉田浩子さんが、森さんの言葉を紹介してくださっています。「私は久先生が伝えくださったものを、残さなければならぬ。」この言葉を読んだ、確かに父の遺言は、森先生によって肅々と執行されているのだ、と思い、不覚にも涙をながしてしまいました。あの世で、父もさぞ喜んでいと思います。

益々の大東流合気柔術および琢磨会の隆盛・繁栄をお祈りいたします。

垂水にて 和田陽子



久師範を囲んで（和田宅）



特別寄稿

日本古武道協会

古武道功勞章受章に寄せて

この度、名譽ある古武道功勞章の授与を受けました。その榮譽と関係各位のご芳情に対し、深く感謝致しております。ありがとうございます。

遺言

私は、昭和五十五年十月下旬のある日の朝、神戸の垂水にお住まいの久珠磨師の四女、和田陽子さんから自宅に電話をいただきました。「父が森さんを呼んでほしいと申しております。父が入院中の公文病院まで今すぐお越しただけませんか。私は病院の玄関でお待ちしており、病室までご案内します」という内容でした。

私は、ついに來たるべきときが来たという悲痛な思いに胸をふさがれながら、すぐに家を飛び出し、約三十分ほどで病院に駆けつけました。病室の久師は、かなり弱っており、ベッドサイドで横たわっていましたが、

私が陽子さんと並んで立つと、突然、最後の声を振り絞るかのような声で「森さんと珠磨会の総務長に任じて大東流と珠磨会の全てを任せ

私に負わされた使命

大東流合気柔術 珠磨会 総務長 森 恕



●プロフィール  
昭和六年九月十八日生。昭和三十七年久珠磨のもとに入門、昭和四十年教授代理、昭和四十八年八段を授与される。昭和五十二年大東流合気柔術珠磨会総務長となり、以来、三十三年の永きにわたり大東流合気柔術珠磨会において指導、多くの門人を育成し現在に至る。平成二十三年日本古武道協会理事。



古武道演武大会で演武する筆者

じて休まりました。私は万感胸に迫って「分かります」としか言えませんでした。久師は、それから数日後の十月

る、よろしく頼む」と言われました。病人の声とは思えないような病室に響き渡るようなしつかりした大きな声でした。そして、そのまま眼を閉

使命

遺言自体は極めて簡単で、しかも

執行

私は珠磨会会員の全面的な協力を得ながら、久師の遺言を適正に執行すべく懸命に努力を致しました。今回の古武道功勞章の受章は、私のこの努力に対するものと知り、心から感激を致しております。

# プログラム

## 1. 開会 (10:30～10:35)

開会アナウンス、国歌斉唱

## 2. 団体演武 (10:35～11:07) …支部別

1 本山スポーツ&カルチャー

2 NHK 神戸文化センター午前

3 西鈴蘭台カルチャー

4 ひよこクラブ

5 ファーストステップ金曜午前クラス

6 ファーストステップ水金曜クラス

7 小林コズミッククラス

8 ファーストステップ日曜クラス

9 西代同好会

## 3. 有段者演武 初段～三段 (11:10～11:20)

1 NHK 神戸文化センター

2 西代同好会・ひよこクラブ・ファーストステップ金午前/水/金/日

3 小林コズミッククラス東京

## 4. 有段者演武 四段以上 (11:20～11:25)

1 NHK 神戸文化センター

2 高松支部

## 5. 指導者演武 (11:25～12:00)

堂上佐代子 鍵田小弓 谷井健一 藤江美智雄 小林明彦 榎原恒夫

福岡慎輔 中川廣志 渡辺文男 三木清明 小泉雄次 小林清泰

## 6. 総務長演武 (12:01～12:04)

総務長 森 恕

## 7. 総務長挨拶 (12:04～12:10)

## 8. 総務長総伝直伝会 (12:10～12:40)

総務長 森 恕

## 9. 集合写真撮影 (12:40～12:45)

## 10. 昼休み (12:45～13:45)

## 11. 合同稽古会 (13:45～14:45)

久門下教授代理 小林清泰、庵木英雄、小林高士、  
(スケジュール都合で今回不参加の先生方もおられます)

## 12. 閉会 (14:45～15:00)

閉会アナウンス、後片付け (全員)

参加申込の集計時間の都合上で記載を簡略にさせて頂いた部分があります。  
ご了承ください。

(司会・進行アナウンス)

難波支部、神戸地区

ご協力いただきました会員の皆様、ありがとうございました。

# 演武大会注意事項

1. 更衣室は男女共、1階の奥です。
2. 会費は支部ごとにお支払いください。代表者による受取サイン願います。
3. 演武者は出番の2組前にはご準備ください、待機場所にて待機願います。
4. 貴重品、更衣、荷物は各自管理ください。外部の方の出入りが自由ですので自己責任で管理ください。
5. 昼食は道場外でお願いいたします。
6. 昼食の準備は各自でお願いします。
7. ゴミは全てお持ち帰りください。
8. 靴の管理も各自でお願いします、必要な場合は靴袋などをご持参ください。
9. 演武終了後は全員で片付け手伝いをお願いいたします。

※当日会場で撮影の際は、撮影者の支部名・氏名を申し出てください。

また、撮影した映像は後日事務局までご提出ください。

平成二十六年から二十七年の二年に渡り、日本武道館の月刊誌「武道」に大東流の合気とは何かについて連載しました。わたしが久師を始め諸先輩から伝授され、研鑽してきた大東流合気柔術の、特に合気技について、大東流を修行する諸氏の理解の助けとなるよう、出来るだけ詳しく解説したつもりです。昨年、この連載が単行本となり日本武道館から出版されました。今回ここに、連載から幾つかの合気技の解説を要約して掲載します。今後の皆さんの大東流の修行に役立てて貰いたいと思います。

・禁忌の合気

人間の防御本能を利用した技である。その要点は、人は自分の体で自分を攻撃することは出来ないという自傷行為への禁忌にある。もし攻撃することになれば、無意識の働きでその攻撃を避けようとして身を捨てるように動いたり、または逆に動きを止めたりする。合気による無意識の動きまたは動きの停止を引き出すことが合気の実訣であることを如実に示す技法である。

・入れ合気（固め合気）

不思議なことに、人は掴んだ相手に力が入るとつられて自分にも力が入り、また逆に力を抜かれると自分の力も抜けてしまう。この現象を武術的に利用して相手を瞬間的に硬直させる合気技が入れ合気（固め合気）である。この技は、心気呼吸をはかり覇気を込めて一息で技を施さねばならない。

・抜き合気

入れ合気の逆を行う合気技である。ただ力を抜くだけでなぜ相手が倒れるのか、外から見ただけでは要領が分からないため、最も修得が難しい技である。原理については入れ合気の項に記したとおりである。この技を行う要領を簡潔に言えば、灯し火を消すように「ハッ」と一気に全身の力を抜くことである。術者は、立っているのに必要最低限以外の力を、まさに瞬間に抜かねばならない。連載ではこれを究極の合気技であるとして解説した。

## 一般財団法人大東流合気柔術琢磨会 協賛支部一覧（順不同）令和元年9月現在

法人琢磨会への参加不参加は任意団体時の各支部の自由意思によります

小林コズミッククラス(小林清泰支部長)、 土曜クラブ (渡辺支部長)、 尼崎支部 (三木支部長)、  
難波支部 (堂上支部長)、 藤井寺支部 (中川支部長)、 芦屋支部 (森下支部長)、  
ひよこクラブ (鍵田支部長)、 西代同好会 (榎原支部長)、 京阪支部 (福岡支部長)、  
西鈴蘭台カルチャー (榎原支部長)、 榎原同好会 (今西支部長)、 本山カルチャー (榎原)、  
名張支部 (稲田支部長)、 岸和田支部 (小林高士支部長)、 川西同好会 (田中支部長)  
ファーストステップ日曜/金曜朝/水曜/金曜(榎原支部長)、

### 「四国関連」

高松支部 (平岡支部長)、 和鷲会 (野口支部長)、 小松島支部 (木村支部長)、  
徳島 (阿部支部長) 徳島脇町 (佐藤支部長)、

### 「海外関連」

フィンランド、アメリカ、オーストラリア、フランス、等

一般財団法人大東流合気柔術琢磨会（森恕総務長）は日本古武道協会に属し、様々な古武道演武大会において参加協力致しております。古武道協会の主催、共催大会への参加資格は一般財団法人大東流合気柔術琢磨会会員です。琢磨会会員とは琢磨会演武大会、合同稽古会、昇級昇段審査会等に参加協力している支部になります。遠方支部は毎年参加困難な状況は想定内です隔年参加でも構いません。遠方支部も出来る限り全ての行事に参加協力をお願いいたします。

## 一般財団法人大東流合気柔術琢磨会の予定

2月：日本武道館主催古武道大会、琢磨会は隔年の参加となります。

会員に公平性を期する為会内公募の形式です、演武者の最終選出は総務長判断となります。会の代表としての技量、立ち居振舞い、品格、その他勘案いたします。参加資格は別メール等で案内済、一般財団法人大東流合気柔術琢磨会の会員。

4月末5月中：琢磨会春の演武大会

会員の為の会員の発表会の場となります。外部演武選出の選考の参考、高段者認定の参考にも致します。尚、数年間特別の理由無く参加されていない会員は外部演武選出候補に該当しなくなっていくます。

7月8月：夏期昇級昇段審査会

各地区にて開催、仮審査を行い申請を総務長提出、認定基準等は稽古手帳参考（基本、任意団体時からの変更は何もございません）

9月：秋の演武大会、法人琢磨会の設立記念等

10月：鹿島神宮古武道大会、日本武道館古武道協会主催。

会員に公平性を期する為、会内公募

12月1月：冬期昇級昇段審査会

各地区にて開催、仮審査を行い申請を総務長提出、認定基準等は稽古手帳参考（基本、任意団体時からの変更は何もございません）

- ① その他、各地域のイベント、演武会開催、参加は支部長に委任されます。後日でも構いませんので、その活動状況や写真などを本部宛にお送りください。会報等準備出来次第会員に公開いたします。写真などはクラウドにアップされてURLをお知らせください。
- ② 琢磨会は営利団体ではありません、高額な参加費徴収や運営費以上の活動は会としてふさわしくございません。ただ現実に外部演武への参加などは実費が発生いたします。会の活動に必要な経費は出来る限り会全体でも補助出来る様にいたしますが、当面の活動費（交通費、宿泊費、参加費）は個人負担をご了承ください。

一般財団法人大東流合気柔術琢磨会からの案内等を直接受け取りたい方は、  
下記の E-Mail までその旨をご連絡ください。  
今後メールにて各種ご案内をさせていただきます。

一般財団法人大東流合気柔術琢磨会の連絡先  
E-Mail : [daitoryutakumakai@gmail.com](mailto:daitoryutakumakai@gmail.com)  
URL:<http://www.saturn.dti.ne.jp/~mackey01/>

一般財団法人大東流合気柔術琢磨会  
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 1-5-14  
メゾンドール高麗橋 605 号  
森・吉村 法律事務所  
TEL 06-6222-3700 FAX 06-6232-0200